

決	議 長	局 長	主 事
裁			

受付

報 告 書

令和 年 月 日

湯前議会議長 金子 光喜 様

湯前町議会議員

議員派遣として出席した研修の内容は、次のとおりでありました。

期 間	令和7年11月5日（水）～7日（金）
場 所	(1) 岡山県吉備中央町(吉備中央農業公社) (2) 徳島県神山町(神山バレーサテライト、オフィスコンプレックス)
目 的	令和7年度 視察研修

報 告 の 内 容	～研 修～ (1) 公益財団法人 吉備中央農業公社 説明： 常務理事(兼 事務局長) 石坂 博司 氏 資料： 公社の事業概要(令和7年度) (2) 認定NPO法人グリーンバレー 説明： 事務局長 作田 祥介 氏 資料： 徳島県神山町を通じて考える「創造的過疎」
	～所 感～ <吉備中央農業公社からの学びと湯前町への提言> ・財政面では、総額8000万円という<u>非常に積極的な公的支援</u>（助成金等）が行われている（依存度が高い）。 ・>町への依存度を整理し、公益事業と収益事業の収支バランスの見通しを立てる必要がある。 ・事業面では、「<u>新規就農者研修</u>」の実績（38名、地元定着率ほぼ100%）が地方創生につながっている。また、「公共施設管理（草刈り等）」事業にも取り組まれている。

＞本町でも「新規就農者研修」に注力してはどうか。また、公社が「公共施設管理」や「農業ヘルパー」を担う方向性を検討し、シルバー人材センターの在り方も含めた老後の働き方改革や農作業の人手不足解消に対応してはどうか。

- ・人件費面では、役場職員の給与レベルを採用されており、人件費高騰が直面する課題となっている。

＞本町は、人材配置を含めた運営基盤の構築を検討する必要がある。

- ・設備面では、農業機械の更新が今後の大きな課題となっている。

＞本町は、機械更新計画を策定する必要がある。

＜神山町「グリーンバレー」からの学びと湯前町への提言など＞

- ・組織面では、「グリーンバレー」や「神山つなぐ公社」など、民間主導のプロジェクトで地方創生に取り組まれている。

＞本町の総合戦略も、民間主導で取り組めるような体制を構築したほうがよい。過去の一般質問で提案した「まちづくり公社」もこの考え方に基づいている。

- ・地域づくり面では、創造的な人材が集まり育つ環境づくりに取り組まれており、人の流れ、事業、教育、経済循環へとつなげられている。

＞本町でも、創造的な人が集まる環境づくりを積極的に進めたほうがよい。

- ・経済面では、働き方や働く場所の自由度を高め、高度な職を呼び込まれている。域外から適度な外貨を取り込み、地域内経済の循環による自立的な発展を実現されている。

＞過去の一般質問で提案した「町内経済の循環」を、本町でも積極的に取り組むべき。

※今回の研修で知り得た２つの言葉を一部要約して書き留めておく。

- ①町民が未来を漠然としか捉えていないのは、町の将来についての議論が不足しているため。町を活性化するには、まず自らの文化を発見し、育む努力が必要。また、人口の流出に対しては、出ていく人の自主性を尊重し、「出る者もあれば入る者もある」という柔軟な姿勢を原点とすべき。さらに、新しく来る人や帰ってくる人が持つ多様な価値観を容認し、受け入れる態度が、町の発展には不可欠である。

- ②野菜ではなく、野菜が育つ環境を作る。